

# Hunter 通信 Vol,5 2021/11/22



知多半島に住む訪れるすべての人へ 健康と福祉を！

## 実は・・・私もひきこもいでした



11/6 大善院かんのんいち  
街の和尚様・ソーシャルワーカー

双方向ディスカッション

盛況裏に終了！

かんのんいち、愛知県常滑市奥条にある寺院（大善院）にて、奇数月に催される昔ながらの縁日です。ハンターズは今回、その場をお借りして、ディスカッション企画を開催。30名を超える皆さんから参加いただきました（詳細2～3頁）。

その成果 少しずつ ～ R3年度ワム事業 Thanks Message ～

安心して相談できる人ができた（30代女性/知多半島圏域）

利用したサービス：訪問サポート（学習支援&生活相談）

勉強をひとりでやっていた時に比べ、分からないことを聞いて、なおかつ私が理解するまで根気よく教えてくれたおかげで、嫌いだっただ数学が少し好きになりました。

さらに、相談事があると聞いてくれて、様々な角度からの考えを提示してくれたことで、安心して相談できる人が増えました。ありがとうございます。



独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

息子も自ら、剪定してくれました（Y.Kさん/知多半島圏域）

利用したサービス：もちもたボランティア（自宅庭の景観整備）

7月と9月に庭の草刈りをお願いしました。家の者では手に負えなくなってしまい困っていたところ、いただいたチラシ(6頁参考)を見て、「これだ！」と思いました。



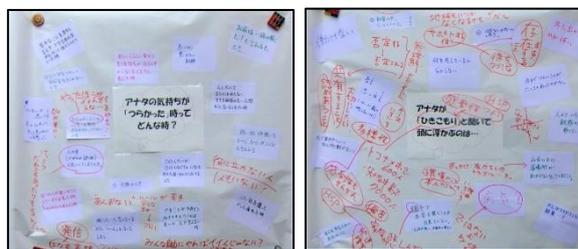
おかげ様で、気になっていた所がスッキリ！有難かったです。後日、息子も自ら、庭木の剪定をしてくれたのにはとても驚きましたが、とても嬉しかったです。家族以外の人が入ることによって、良い刺激があるのかなと思いました。これからも、ちたハンターズの皆さんのお力をお借りしながら、少しずつ前に進んでいけたらと思っています。

## 街の和尚様・ソーシャルワーカー双方向ディスカッション(抜粋)

(令和3年11月6日・土・12時~13時)

### ひきこもりは病気ではない

守山：この企画が始まる前、皆さんから「アナタの気持ちがしんどい(辛い)と思う時は、どんな時?」「ひきこもりはどんなイメージ?」という質問へメッセージをいただきました。



熊倉：真っ先に目に飛び込んできたのは、「ひきこもりは病気?」というメッセージでした。これは、親御さんが特に心配されることです。長い間のひきこもりによって、何らかの病気になることはあります。しかしながら、「ひきこもりすなわち病気」ではありません。

守山：これは、しっかり理解しないとイケないですね。和尚さんは、いかがですか?



外山さん

外山：人の目が気になったり、気を遣いすぎて生き辛くなるのは、決して珍しいことではないのかなと。ひきこもりになる人は、感受性が鋭いと思っています。私ごとですが先月、食べた時に歯の被せ物が取れて、歯医者さんでスポッと抜かれてしまいました(笑)。今ではこんな風に…(マスクを取る)。

会場：笑(驚きとともに)。

外山：始めは、見た目が気になるんです。これじゃ、吉本新喜劇みたいだなって。でも、おもしろいことにすぐ慣れちゃう(会場から「全然、違和感ないですよ」の声)。ひきこもりになる理由は様々あるとは思いますが、人の目を気にするというのは、少なからず皆にあると思っています。

### ひきこもる人にも、色々な人となりがある

熊倉：外山さんから今、見た目というお話を頂戴しました。ひきこもりと言うと、あきらめだったり、先ほどお話にあった恥ずかしいというイメージがあります。その一方で、ひきこもりの人を含め、人にはそれぞれ「人となり」があります。

これまで、私が出会ってきたひきこもりの皆さんは、人に優しい。親御さんを送り迎えする。家族の衣類を洗濯をしたり、お風呂場や部屋を掃除する方がいました。

守山：意外です…。そうなんですね。

熊倉：動画やニュースでは、ひきこもる人は部屋が散らかし放

題、親御さんに手を上げる内容が、刺激的に取り上げられています。でも実際は、色々な人となりを持っていて、必ず長所を持っている。それが、私の印象です。

### ひとりひとりが、違うからこそ

守山：いろんな見方と言うと、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」という言葉があります。でも、例えば仕事で、自分はひと区切りつきたいのだけど、相手に終わりが見えない時、そうもいけなくなる(苦笑)。そのせめぎ合いというか、お互いの違いどころを出し合うというのも大切ですよ。



熊倉：ひきこもりは、負い目となるので、相談しづらいのは道理です。となると、ハンターズを含む福祉機関だけでは限界がある。そこで大切となるのが、今日ここにいらっしゃる皆さんのような、地域に実際に住む方々です。皆さんが、ひきこもりについて、正しい情報や理解があり、「ひきこもりは悪くないよね」と。それは、お住まいの地域で言葉にしなくても、少なからず雰囲気伝わります。それによって、ひきこもりに悩む皆さんの気持ちが楽になり、相談してみようという気持ちに変わってくれたら…。そのように考えています。

守山：かんのんいちという「祭り」で人が繋がる。ハンターズのような相談機関が地元にある安心感。そこから、ひきこもりに悩む方が何かきっかけを掴めるようになる。大事だと思ってます。

### 自分自身がひきこもりでした

守山：ここで、参加者の皆さんからもお話を頂戴します。

Aさん：私の家は、兄が10年間ひきこもりでした。当時は、母が「私の育て方が悪かったから」と自身を責めて、それを私も目の当たりにした時期がありました。その後、家族で協力して兄を支え、兄はひきこもりから抜け出しました。

私は、母は悪くないと思っています。同じ子である私は、無事に過ごすことができている（笑）。そのような経緯にて、企画には興味があって参加しました。

Bさん：私は、実は自分自身がひきこもりでした。ひきこもりとは言っても、その人それぞれのしんどさがあります。私は働いていた職場で、理不尽なことを言われ続けて辞めたことがきっかけでしたが、それはあくまできっかけに過ぎません。その前から、学校などの人間関係で悩み続けてきた。でも、平気な顔をして過ごしていたんです。それが、一挙に吹き出てきた感じでした。

今思うのは、感受性は人それぞれなので、まずはそれをお互い、表に出さないことには、前に進めないんじゃないかということです。

### それもありじゃない？と伝える

外山：お邪魔したお家で、「ひきこもりかな…」と思う人がいたことがあります。ひきこもりになった原因を無くして、解決だけしようと答えを探すと、かえって抜け出すことが困難となる。ひきこもりを無くすというより

も、それを共有する。受け入れることかと思います。自分の価値観に合わないから排除・否定するというより、「それもありじゃない？」という考え方を、本人や家族に伝えていく。そういった人をご近所や地域で増やしていくことだと思っています。

守山：これまで、皆さんから出てきたようなお話をする時間を日頃、自分の生活の中で設けているか。今日の企画で、それが投げかけられた気がしました。かんのんいちでは安心できる場だからこそ、皆さんも話しやすかったのではないのでしょうか。こういった場を、これからも増やしていけたらと考えています（終）。



守山さん



## ちたびと vol.5

とこなめ南部高齢者相談支援センター  
管理者(社会福祉士) 廣瀬 渉さん

日頃、知多半島にて活躍されている人を紹介する「ちたびと」。

今回は、地元の高齢者の皆さんが、日々安心して暮らす一助を担う現場人、廣瀬さんです。

### 漁港やお寺が多い地区

熊倉： 日頃、廣瀬さん始め、職員の皆さんが担当する、地域の特色はどんなところでしょうか？

廣瀬： 行政区としては、大谷地区や坂井地区はじめ 10 か所あります。そこに 65 歳以上の方が、約 3,000 人くらい暮らしています。漁港やお寺が多く、昔ながらの景色がまだ残る地域というところが特色です。

### お世話は、できるだけ避けたい

熊倉： 近頃では、どんな相談がありますか？

廣瀬： 本来は、介護サービスが必要と思われる方に対して、ご家族が気づいていない相談があります。例えば、親御さん、息子さんがそれぞれひとりというお家です。親御さんが以前よりお風呂に入らない、身なりに気を遣わなくなった。しかし、その変わり様に息子さんが気づかれない…。

熊倉： 息子さんも余裕がない…？

廣瀬： そうなのだと思います。息子さんが帰ったら、いつもの晩御飯が支度されてない。そこで「おやっ？」と置いていただけたら良いのですが、息子さんも疲れている分「親も歳とったなあ」という印象に留まってしまう。

「ひょっとしたら介護が必要？」と気づきにくいのでしょうか。

(廣瀬さん センター前にて)

熊倉： 珍しいお話ではありませんね。



(廣瀬さん センター前にて)

廣瀬： 高齢のご夫婦だけのお家では、奥さんが料理を作らなくなったけど、買って済ませていた。旦那さんが、奥さんを抱えてトイレまで付き添っていらっしゃるのに、旦那さんご自身が大変だと思っていないケースもあります。

熊倉： 「人からのお世話は、できるだけ避けたい」という思いは、ひきこもりの相談と似ています。難しいところです。

廣瀬： そうですね…。それでも、私たちは、介護サービスの利用に繋げることができれば、ある程度のゴールは見えてきます。一方、ひきこもりのゴールは、あるようなイメージがあります。

熊倉： 仰る通りです！

廣瀬： ひきこもりの場合、親御さんのご希望が「普通に暮らして欲しい」というものだとしたら、それに至るまでサポートが必要です。終わりが無いというか、ずっとお付き合いしていく支援ですね。

熊倉： そうですね。私が担う方の中には、10年以上のお付き合いも珍しくありません。だからこそ、ご本人やご家族が、より気軽に話しやすい強みを、活かすことができればと思っています。



## 他機関との協働・連携

熊倉： 日頃のお仕事で、もどかしい何とかならないか、と感じるのは、どんな時でしょうか。

廣瀬： 他機関との協働、連携です。私たちに寄せられる相談の中で、ご息が仕事をしていない。その様子も何か気がかり…といった時があります。

熊倉： 高齢者支援（介護サービス）に該当しない方ですね。

廣瀬： その時、私たち以外のどこが関わったら良いかを考え、実際に他機関に相談します。

すると、「うちは障害者が対象です」「ご本人が希望されたら訪問できます」といった回答が少なくなくて…。

熊倉： 国は今、重層的支援整備体制事業<sup>1</sup>を掲げ、知多半島各自治体も取り入れつつあります。しかし、温度差もあります。



廣瀬： 私たちもケアマネさんも、先のような場合、気持ちとしては心配できても、具体策が描けない苦しさがあります。

熊倉： 今後、そのような時には、ハンターズへお声がけください。

廣瀬： よろしくお願ひします！

困っている人と人を繋いでいく支援

熊倉： 相談支援センターを担うやりがい、どんなところでしょうか？

廣瀬： 私は、もともと高齢者の方とお話するのが好きで、楽しいです。その方との関わりを続けていくと、少しずつ人間関係ができてきます。「電話だけなら大丈夫」と仰っていた方が、「今度は家に来て良いよ」と言っただけだと嬉しいですね。

熊倉： 丁寧な関わり、お付き合いがあればこそですね。今後、どのような相談支援センターでありたいと思いますか？

廣瀬： 先のお話にもあった重層的支援。いわゆる「断らない相談窓口」を目指したいです。それを実現させていくには、私たちの人員体制では不十分です。

熊倉： となると、やはり他機関との連携が大切になってきます。

廣瀬： 常滑市には、介護への理解はじめ、地域にある様々な困りごとを支えたいという、気持ちを持つ人は多いと思います。

そういった方を始め、福祉分野以外の人にも繋げていけるような業務を目指したいです。

### 取材後記

廣瀬さんのお話は分かりやすく、現場の様子がありありと伝わってきました。又、相談に訪れる人に安心感を与え、気軽に困りごとを話すことができる雰囲気も、そのお人柄から垣間見ることができました。

これからも頼りになる連携機関として、様々な場面において相互に協力していくことができたら幸いです！（熊倉）

<sup>1</sup> 重層支援整備体制事業：制度・分野の枠、「支える側」「支えられる側」という従来の関係を越えた、人と人の関わりを創り出す事業。「断らない相談支援」。社会との繋がりを見出す「参加支援」などがある。

